

<空の安全・安心を！整理解雇四要件を守れ！>

2017. 11. 22

JAL闘争を支える京都の会News No. 57

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX : 075-531-3856 E-mail : komai123@kfa.biglobe.ne.jp

11. 10 稲盛財団京都賞受賞式 抗議宣伝行動行われる

11月10日、「日本航空の不当解雇撤回闘争勝利をめざす京都支援共闘会議」は国立京都国際会館で開かれた「稻盛財団第33回(2017)京都賞授賞式」会場前で抗議宣伝行動をおこないました。JAL原告団、JAL闘争京都支援共闘会議に参加する仲間など約30人が参加し、「JAL闘争を支える京都の会」の会員も参加しました。



抗議宣伝行動では、最初にJAL闘争京都支援共闘の世話人で京都総評議長の梶川さんがあいさつをしました。梶川議長は「JAL日本航空でおこなわれた経営再建、その時に165名ものベテランの客室乗務員やパイロット、この皆さんの解雇を行い会社経営を再建するという手法をとった、その当時陣頭指揮をとっていた稻盛和夫さんに対して改めて一刻も早く今、発言をしていただきたい、そして稻盛さんの責任においてこの争議の解決をしていく

ただく、ベテランのパイロットや客室乗務員の皆さんを一刻も早く空の職場に戻し、事の解決にあたっていただきたいという事を強くお願ひにあがっているところである。本日は京都賞受賞おめでとうございます。しかし同時に稻盛さんが一方で東京の日航本社において日航の立て直し、その事で働く者の165名もの首を切ったということの事実に改めて重大な禍根を残すかどうか、ここが今問われているという思いで今日はよせていただいている。2010年の大晦日に、ベテランのパイロット81名と客室乗務員84名、165名もの整理解雇をおこなった。働く者を切り捨てて、そしてそれで会社を再建するのであれば素人の仕事である。働く者の雇用を守り、暮らしを守りながら会社経営を存続維持をしていく、再建をするというところが手腕が問われるところではないかと思う。しかし稻盛さんを陣頭におこなわれたその内容は働く者の声をばっさり切り切るというやり方であった。整理解雇4要件、そのルールを大きく崩す内容であったという点は労働団体として看過でき



(ウラ面に続く)

ない内容、事例である。一刻も早く、まずこの争議を解決してこそ経営者の役割ではないかと思う。稻盛さん自身が今こそ解決のために全力を上げていただくことを心からお願ひする。」とあいさつしました。

東京から駆けつけたパイロット原告団の山口団長は「7年前に165名が解雇された。私は当時の稻盛会長とは2011年の9月、法廷で裁判が終わってから『稻盛会長、こんな解雇でいいんですか。あなたの晩節を汚すんではないですか。』と言ったら、稻盛さんは『あなたが運行乗務員の団長さんですか。』と言ってそれっきり稻盛さんとは話したことがない。稻盛さんの過去の日本航空での立場を考えると、やはり責任は重大であると思う。稻盛さんは陳述書の中で述べているように、2010年11月、日本航空本社で日本航空の経営のトップと管財人らと会議をして職員の首を切るという決断をした。稻盛さんはその場にいた最高責任者であった。ところが稻盛さんは裁判所の法廷でも管財人が整理解雇をしたんだ、私が解雇の実施者ではなかった、と言う。平たく言うと逃げてる。会議に出席していて最高経営責任者が会議の結論を認めたということだ。こんなことは当たり前ではないか。稻盛さんが責任から絶対逃れることはできない。最高裁で不当労働行為が断罪されたわけだから、今こそ稻盛さんがJALの不当解雇を撤回し解決できるチャンスである。このチャンスを逃すなら稻盛さんが無責任な経営者とのレッテルを貼られたままである。私たちは日本航空の165名の首切りは絶対に認めることできない。」と訴えました。

次に稻盛氏への申入書の内容をJAL客乗原告団・副団長の鈴木さんが紹介しました。そしてJAL原告団、梶川・京都総評議長、駒井・JAL闘争を支える京都の会事務局長らで代表団を結成して申し入れに向かい、京セラ職員に稻盛氏に申入書を渡すよう、そして合せて私たちの思いを伝えるよう申し入れました。その後JAL原告団、JAL闘争支援共闘会議の仲間からのアピールが続き、最後に会場にいる稻盛氏に聞こえるよう大きな声で「JAL不当解雇を撤回せよ」とのシュプレヒコールをおこなって、この日の行動を終えました。



第6回 京都団結・交流まつり

11月12日、「第6回 京都団結・交流まつり」が六孫王神社で開かれました。JAL原告団は模擬店で、今年はカレーの販売をされました。ステージ上のアピールもありました。

